

与那国で漁師として生きる  
— 与那国漁業の現状と課題 —

与那国町漁業協同組合  
玉城 正太郎

### 1 与那国島の位置と漁業の概要

与那国島は日本の最西端に位置し、隣の台湾までわずか111kmの距離にある、人口1,800人、周囲27.5kmの国境の小島である(図1)。私が住む久部良は、糸満や他島からの寄留民が明治後期～大正時代に始めた集落で、かつては東洋一といわれたかつおぶし工場や、勇壮なつきん棒によるカジキ漁でにぎわったが、その後、漁獲量・漁民数ともに激減している。

現在、与那国漁協の正組合員数は43名、そのうち20代から30代の後継者が5名、青年部は7名である。平成8年度の総水揚げは148トン、金額は9,500万円であった。水揚げされる魚の種類は、通常3～9月がサワラやカジキ、10月からはアカマチ(ハマダイ)、ムツ、チョウチンマチ(チビキ)といった深海魚で、1月ごろからソデイカ釣りも行われる。漁場は比較的近く、夜明け前に出漁し、夜6時ごろ帰ってくるのが一般的な操業形態である。(図2)

### 2 課題選定の動機

与那国の漁民は、離島ゆえの輸送・流通面におけるコスト高の問題や、国境付近の漁場確保の問題を抱えており、それに加えて、魚資源の減少、漁民の高齢化や後継者不足など、困難な状況での操業を余儀なくされているが、今一度、現状と問題点を見直し、今後の自身の経営向上、また、地域漁業の発展に役立てたいと考えた。

### 3 活動状況および効果

私は中学を卒業後、水産高校に入学、さらに専攻科へと進み、将来は大型商船の勤務を希望していた。しかし腰を痛め、卒業後、父の漁を手伝っていたところ、一人で漁に出た時にカジキがかかり、ようやくで釣り上げた時の感触が忘れられず、この仕事に着いたようなものだ。それが20才の時であった。

その後、結婚して自分の船を持つまで、約6年間父について見習いの仕事をした。結婚を機に責任感が生まれ、それまでよりも確実に水揚げするために努力、工夫するようになった。あとで思えばこの6年間に、父からもっとたくさんのことを学んでおくべきであった。

ある意味では、カジキはだれにでも釣れる魚である。もちろん、経験・技術もあるが、それ以上に運に左右される。しかし底魚の場合は運では釣れない。何よりも、経験・技術、そしてそれらに裏打ちされた勘がものをいう。自分の船を持ってからは計器類も徐々にそろえ、GPSやレーダーなども装備してハイテク漁船になったが、それでも簡単には魚は釣れない。例えば、自動操舵にソネの位置をインプットして、ピタリと漁場に着き、魚探

に魚群がはっきり映ったとしても、その位置に縄を入れることができなければ魚は釣れない。縄を入れるというのは、ただ上から落とせばまっすぐに降りて行くというものではない。そこで潮の流れをよむというような経験・技術が必要になってくる。最近になって、ようやく自分なりに魚が釣れるという感じがつかめるようになった。

与那国漁協では毎年、旧暦10月10日に金びら祭が催される。この日に1年間の水揚げ高上位3名が表彰されるのだが、私も3年程前からようやく上位に名前が入るようになった。カジキ中心のバクチ的な漁一本のやり方をやめ、魚の上がり具合や自分の調子によって、すぐ底魚に切り替え、確実に水揚げすることを考えるようになってから、水揚げ高も安定するようになった。この魚が釣れなければ別の魚、と自分の手の内にいくつもの札をもつことが、漁業経営の安定につながると考えており、今後も新たな魚種・漁場の開拓など経営向上の余地があると思っている。そのために同業者との情報交換は欠かせないもので、離島に住む私には、新しい漁具・漁法の情報源として大いに役立つ。

#### 4 現状と課題

##### ①島内消費の拡大：

島内で消費できる魚の量はごくわずかであるため、大部分を島外出荷に依存している。現在は漁協に委託してカジキは熊本へ、マチ類やアラなどの高級魚は県漁連や本土の市場に出荷している。それ以外の魚はセリにかけ、仲買人がそのほとんどを石垣などに送る（図3、4）。シビ、カツオなど値の安い魚はセリにかけても売れないことがあり、そうすると各自で販売するしかないのが現状で、場合によっては処分できずに捨てることすらある。しかしその一方で、島内の消費者の手に入る魚の値段は決して安いものではなく、それが結果として購買力を低くしているとも考えられ、今後、島内消費の拡大は課題の一つである。

##### ②島外出荷の問題点：

次に出荷経費をみると、売上の約3割を占め（図5）、出荷先別キロ当たり経費は、県漁連426円、鹿児島473円、熊本343円となっている（表1）。（熊本の経費が比較的安いのは、与那国-石垣間、または、与那国-那覇間の輸送に船を利用しているためである。）また、各市場ごとの荷役料に着目すると、鹿児島では魚1キロ当たり10円、熊本では熊本空港から市場までの運賃の1割と、どちらも魚の重量に対して荷役料がかかるが、県漁連の場合は売上金額の2%と売上が荷役料の基準になっており、少し釈然としないところもある。

また、島外出荷した魚について魚種別に価格を見ると、まさに魚は水物で高値が付くこともあれば、その翌日にはとんでもない安値になることもある（表2）。場合によっては送らない方がよかったということにもなりかねない。従来からカジキについては極端に値が下がったときには町からの運賃補助がある。それが昨年は底魚にも一部適用された。このように一定の魚価が保証されれば、安心して魚を釣ることができる。さらに今後、値の安い魚にも適用できれば、なお一層活気が出ることだろう。

他に経費削減の方法として、与那国は離島なので漁協が取り扱う購買品、燃料、氷、箱、といったものすべてがどうしても割高になってしまうが、これを例えば今後、漁協が黒字

になった場合には、組合員に還元する意味で値下げしていくということは課題としてあると思う。

### ③漁場の問題：

与那国で水揚げされる魚のうち、最も高値がつくのはアラで、良い時でキロ6～8千円の値がつく。ところがこの魚に私たちが注目し水揚量が増えた途端、台湾の軍事演習の問題が起き、アラが釣れるソネはすっぽりと演習区域内に組み込まれ、操業を停止せざるを得なくなった（表3）。その後政治交渉等により演習区域は変更されたが、一昨年に日本が国連海洋法条約を批准し、200カイリの線引きがなされると、台湾との間に中間線が生まれた。私たち与那国の漁民はこれまで通り入り会い操業ができることを願っているが、こういう国境に関するニュースには敏感になり、また不安を覚える。

## 5 今後の計画

魚の出荷先については、次第にスーパーとの契約など新たな販路も広がりつつある。今後は、ますます全国の消費傾向や市場情報等に気を配り、新たな加工品の開発に力を入れるなど、少しでも離島のハンディを克服することが大切である。そのためにも私自身は、まず出荷先の市場や、自分の魚の評価などを見てきたいと考えている。

また、現在計画されている事業としては、大型パヤオの設置と、平成12年度開始予定のクルマエビ養殖事業がある。これが成功して、与那国の漁業が発展することを私たちは皆期待している。

表1 玉城正太郎 平成8年度出荷先別流通経費内訳

単位：kg、千円、(単価)は円/kg

出荷先	水揚げ			与那国漁協出荷経費 A				出荷先市場経費 B				経費計 A+B (単価)	手取 収入 (単価)	
	数量 (比率%)	金額 (比率%)	単価 円/kg	運賃 *1	漁協 手数料	その他	計	市場 手数料	運賃 *2	荷役料	その他			計
県漁連	603 (5.7)	1,107 (16.8)	1,836	95	43	36	174	55		23	5	83	257 (426)	850 (1,410)
鹿児島	1,107 (10.4)	1,544 (23.4)	1,395	289	47	78	414	76	13	11	10	110	524 (473)	1,020 (922)
熊本	601 (5.7)	668 (10.1)	1,111	102	32	15	149	33	21	2	1	57	206 (343)	462 (768)
島外計	2,311 (21.7)	3,319 (50.3)	1,436	486	122	129	737	164	34	36	16	250	987 (427)	2,332 (1,009)
島内	8,320 (78.3)	3,278 (49.7)	394	0	169	0	169	-	-	-	-	-	169 (20)	3,109 (374)
合計	10,631 (100.0)	6,597 (100.0)	621	486	291	129	906	164	34	36	16	250	1,156 (108)	5,441 (512)

\*1 与那国から出荷先の空港までの運賃

\*2 出荷先の空港から市場までの運賃

表2 平成8年度魚種別手取価格  
(島外出荷魚種について)

単位：円/kg

魚種	平均	高値	安値
カツオ、シビ	194	302	104
ムツ、アラ	1,010	2,049	401
アカマチ	1,410	2,043	675
カジキ	769	947	737

表3 アラ(スケソウ)の年次別水揚げ  
与那国町漁協

	数量 kg	金額 千円	単価 円/kg
平成5年度	8,780	25,274	2,879
6	10,278	33,149	3,225
7	1,015	3,481	3,430
8	305	898	2,944



与那国島からの距離

台湾	111 km
那覇	509 km
東京	1,900 km

図一1 位置図

# 図一2 漁場図

台湾

スオウ曾根  
アカマチ・ムツ  
10~2月

アイノ曾根  
アカマチ・ムツ  
10~2月

メクラ曾根  
アカマチ・ムツ  
10~2月

与那国島

カジキ  
3~9月

中の曾根  
カジキ  
3~9月

沖の中の曾根  
カジキ  
3~9月

図3 平成8年度出荷先別数量

玉城正太郎

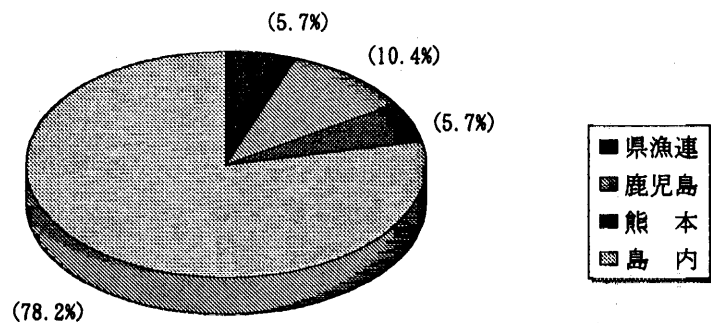


図4 平成8年度出荷先別金額

玉城正太郎

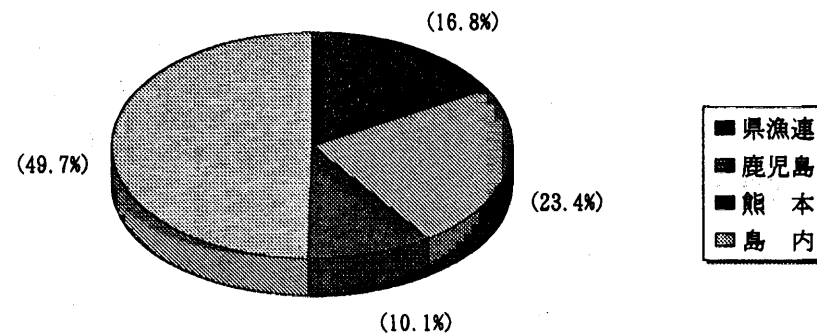


図5 平成8年度島外出荷分経費内訳

玉城正太郎

